



社団法人 日本病理学会  
〒113-0033  
東京都文京区本郷2-40-9  
ニュー赤門ビル4F  
TEL: 03-5684-6886  
FAX: 03-5684-6936  
E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp  
http://jsp.umin.ac.jp/

社団法人日本病理学会

第283号

平成23年(2011年)8月刊

## 1. 平成24年/25年度役員選挙の実施について

日本病理学会選挙管理委員会は、6月15日、本学会正会員に次期役員の内候補者の公募および選挙日程などの選挙概要を公示した結果、すべての選出区分で応募があった。

選挙管理委員会は、定員を超えた立候補者のあった全国区選出理事と監事の選挙を実施することとし、8月12日に選挙管理委員長名で投票用紙のほか「被選挙人名簿」および「所信表明一覧」などを送付して、8月12日に投票を依頼した。投票は平成23年9月7日(水)(当日消印有効)までである。

なお、その他の選出区分は、それぞれの立候補者数が定員内であり、「新役員当選者名簿」のとおり、無投票当選となった。

### 被選挙人名簿

#### 全国区選出理事(選出区分2)

氏名	所属
深山正久	東京大学大学院医学系研究科
福本学	東北大学加齢研病理
樋野興夫	順天堂大学医学部病理・腫瘍学
黒田誠	藤田保健衛生大学病理診断科
仲野徹	大阪大学医学系研究科病理学
根本則道	日本大学医学部病理学分野
落合淳志	国立がん研究センター東病院
小田義直	九州大学形態機能病理
岡田保典	慶應義塾大学医学部病理学教室
笹野公伸	東北大学病理診断/病理部
白石泰三	三重大学医学系研究科腫瘍病理学
高橋雅英	名古屋大学医学系研究科分子病理
上田真喜子	大阪市立大学医学部病理病態学
安井弥	広島大学大学院分子病理学

以上 14名(記載はABC順, 所属は15字以内・本人申請)

### 所信表明一覧(I)

全国区選出理事候補者: 14名; 掲載はABC順

深山 正久

(東京大学大学院医学系研究科)

東日本大震災、その後の困難を乗り越え、規模縮小はありましたが第100回病理学会を成功裏に開催できましたこと、会員の先生方のご尽力、ご支援の賜物であり、学会会長として深く感謝申し上げます。ワークショップ・オープ

ンフォーラム公募、学会開催時座長、演題発表などで示された個々の会員の熱意、力量は素晴らしいものでした。病理学の次の100年を築くエネルギーを実感し、「Diagnosis and Discoveryの学」としての病理学を皆様とともに強力に推し進めていきたいと決意を新たにしました。これまで三期六年の理事としての経験と実績(企画委員長、専門医部会長)をもとに、学術活動のさらなる活性化、病理専門研修への公的補助要望などを通じた若手病理医のリクルートを目指します。国民の医療に責任をもつ病理専門医の社会的認知を高め、生涯教育の充実を図ります。病理情報ネットワークを活用し、若手が積極的に参加する学会運営を進めます。ご支援、お願い申し上げます。

福本 学

(東北大学加齢研病理)

今次の大震災で、海外を含めて病理関係者の連携による物的、精神的支援が復興に大きな力となることを痛感しました。一方、病理学会100年を経て、慢性的な専門医不足と高齢化を迎えています。さらに公益法人を選択するか否かなど、学会を取り巻く環境は激変の一言です。今後の病理学会の発展に若手人材の育成が第一であることは明白です。そのために①市民講座や他学会との連携などを通して、研究と臨床における病理の重要性を広く知ってもらう、②病院に病理科があることによる医療へのメリットを検証し周知する、③医学を志す人材に、病理業務は意外と自分で時間をマネージできること、研究を通して考える楽しさを身につけるために病理学は恰好であることのアピールに重点を置いて参ります。被災経験を活かして、蓄積した病理標本の保存・廃棄の道筋作りを含め、病理としての危機管理法や、学会としての迅速な被災地域への貢献法について提案して参ります。

樋野 興夫

(順天堂大学医学部病理・腫瘍学)

「診断病理学」と「実験病理学」とそれをブリッジするダイナミックな「広々とした病理学」は、時代の要請であると考えます。病理学の在り方を静思し、日本病理学会の存在を高らかに世に示す時であると思います。「広々とした病理学」とは、「病理学」には限りがないことをよく知っていて、新しいことにも自分の知らないことにも謙虚で、常に前に向かって努力しているイメージであります。

(1) 世界の動向を見極めつつ歴史を通して今を見ていく

(2) 俯瞰的に病気の理を理解し「理念を持って現実に向かい、現実の中に理念」を問う人材の育成 (3) 複眼の思考を持ち、視野狭窄にならず、教養を深め、時代を読む「具眼の士」の種蒔き 第99回日本病理学会総会「広々とした病理学—深くて簡明、重くて軽妙、情熱的で冷静—」を主催させて頂きました。お陰様で大盛況でした。「病理学に新鮮なインパクト」を与えることが理事の使命と考えます。

#### 黒田 誠

(藤田保健衛生大学病理診断科)

私は全国区理事として、一貫して“医療としての病理学”の実践と啓発活動に全力を挙げて取り組んできました。高度先進医療における最終診断やセカンドオピニオンあるいは診療関連死の問題等で国民が病理に対して注目をし新たな視点から期待をしてきております。また、この間に「病理診断科」の標榜が実現し「病理診断」が第13部として独立できました。国民は病理医の仕事の重要性を着実に認識しております。今こそ日本病理学会の社会における立ち位置とあり方を真剣に考えていくとともに、医学生および研修医が“医療としての病理学”に魅力を感じる現場のあり方を検討し、実践していかなければなりません。病理が医療に必要不可欠な存在であることを世の中に幅広くアピールをし国民から支持をしていただけるように尽力します。現在までの病理学会での多くの経験を基盤として全力でがんばっていく所存でございますので御支援の程何卒宜しくお願い申し上げます。

#### 仲野 徹

(大阪大学医学系研究科病理学)

病理学とは、疾患の原因・病因を探る統合的な学問分野であり、すべての医学部生は、病態を正しく理解できる医師になるため、最先端の学問分野としての病理学を身につけなければならない。大阪大学医学系研究科・病理学の教授に就任してからの7年間、このような考えに基づき、教育および研究に勉めてまいりました。また、昨年度からは学術委員会委員として、病理学会の学術の発展に努力して参りました。病理学の重要性和魅力を広く発信するとともに次の世代に伝え、さらに発展させていくことが、病理学教室に籍を置く私に課された何よりの責務であると考え、非力ではありますが、日本病理学会のお役に立てればと、今回の選挙にあたり、思いを定めるにいたしました。何卒、ご理解をいただき、このたびの理事選挙（全国区）への立候補につきまして、ご支援を賜われれば幸甚に存じます。

#### 根本 則道

(日本大学医学部病理学分野)

平成20年の医療法改正は病理診断科の開業を可能とし、診療報酬改正による病理診断（第13部）の独立は病理医の社会的認知度の向上に繋がりました。また、22年の改正では病理診断料の増点（500点）と診療所での算定が認

められ、細胞診断料（240点）が新設されました。しかし、現行の病理診断料と細胞診断料の算定には様々な制約があり、医療現場における実情と大きく乖離しています。国民のための良質な医療は病理医により担保されると言っても過言ではありません。従って、病理医の育成は病理学会の責務です。病理医育成には病理診断に関わる医療環境を魅力あるものに整える事が必須です。私は医療業務委員長として社会保険委員会と共にこの問題に真剣に取り組んできました。将来を担う若い医師が病理医を職業選択として選ぶことができる医療環境を整備するために理事として誠心誠意努力する所存です。会員の皆様のご支援をお願いします。

#### 落合 淳志

(国立がん研究センター東病院)

これから10年余りで、日本は世界的に経験のない超高齢化社会に突入し、患者数は急激に増加すると思われま。病理医数が減少する半面、分子標的治療の導入、治療法の多様化、診断の複雑化および専門化が進み、医療訴訟や診断精度管理など病理医への要求は厳しくなると考えられます。このような山積した問題に対処するには、病理医の育成はもちろん、病理診断に不必要な病理学的記載を省き、規約の統一化・簡素化を行うなど病理診断のための基盤を早急に整える必要があると考えます。この問題は、病理学会単独で解決できるものではなく、臨床諸学会および厚労省と連携し、新しい病理診断のための社会的基盤を形成し、病理診断の精度管理体制を確立する必要があると思われま。私はこれまでの病理診断、取扱い規約作成、標的治療診断確立などの経験を生かし、今後の病理診断の基盤整備を不断の努力により達成したいと考え、本学会理事に立候補いたしました。

#### 小田 義直

(九州大学形態機能病理)

現在、若い世代の病理学会会員および病理医専門医の減少が問題となっていますが、人材育成委員会委員であった経験を生かし、ワークライフバランスの充実を図り病理医の働く環境を改善することによって、若者にとって病理専門医が魅力ある職業になるよう努力します。私は現在まで人体病理学に関する研究に従事し、学術関係では研究推進委員会委員やPathology International 常任刊行委員を務めてきました。病理学の更なる発展のためには人体病理と実験病理との融合が必要であり、病理学会総会の活性化に取り組んでいきたいと思ひます。同時に単なる病理診断医ではなくリサーチマインドを持った病理医の育成も必要と考えています。さらに国際的なバランス感覚を持った病理医あるいは病理研究者を育成するために、積極的に海外の病理学会あるいは病理学者と交流し若手を海外に派遣する仕組みを整えたいと思ひます。

### 岡田 保典

(慶應義塾大学医学部病理学教室)

診断病理学と実験病理学の一方に偏ることなく、両者がバランスよく運営されることが日本病理学会にとって最も肝要と信じております。このような観点から、これまで学術担当の常任理事・副理事長、広報委員長として、学術集会の改革、Pathology Internationalのonline化と会費の値下げ、市民公開講座の改善、ホームページの改訂などに取り組んできました。来年4月には第101回日本病理学会総会を開催することとなっております。次代を担う若手病理医・病理学者の発掘、新たな病理医・病理研究者の育成が重要課題と考えています。これらの課題達成に向けて、学部・大学院生や研修医に魅力と期待を抱かせる病理学を提示するとともに、日本病理学会のさらなる活性化・充実を目指して努力したいと考えております。病理学会員の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

### 笹野 公伸

(東北大学病理診断/病理部)

最初に本年3月11日に発生しました未曾有の東日本大震災の犠牲者に哀悼の意を述べさせていただきます。今回の大震災は被災地ばかりでなく本邦全体に対して医療、医学教育等の分野も含め多大なる影響を及ぼし出しております。このような大きな潮流の中でけして病理診断科、病理学を埋没させてはなりません。特に諸先輩方の多大なる努力で標榜科としてようやく実現しました病理診断科を更に確固としたものとして発展させる事が何よりも望まれるのではないのでしょうか。具体的には病院や施設等で一人病理医を複数化させる為に内、外保連で病理医による診断行為を更に評価していただく事、病理診断の均霑化の重要性の更なるアピール、剖検/CPC等を公的制度として医療行政に組み入れる事等が病理学会全体として取り組んで行く優先課題と信じます。これらを着実に実現していく事が一人でも多くの後輩を病理の道に進ませる重要な第一歩になると考えます。

### 白石 泰三

(三重大学医学研究科腫瘍病理学)

私はこれまで中部支部長として病理医のサポートを念頭に活動を行ってきました。事務局機能を強化し、HPの有効利用、ヴァーチャルスライド活用、支部会(交見会)症例のデータベース化、世話人の負担を減らした交見会運用、を目指しました。支部活動は活性化され交見会参加者は増加しました。しかし、支部活動には人員、財政面で制約があります。全国区理事として選出された場合はこれまでの経験を活かし、支部機能の強化を図ります。

また、学術活動のさらなる活性化のためには若手人材の発掘、育成が重要です。「座長候補リスト」を有効利用し、座長以外の活動にも参加していただき、学会を挙げて彼らのサポートを行います。このような活動でキーワードは「連携」であると考えます。地域、年代を超えた病理医間の連

携だけではなく、基礎・臨床各部門、他の学会、さらには学生、と対象を幅広く考え、各方面との連携を深め、汗を流して活動していきます。

### 高橋 雅英

(名古屋大学医学系研究科分子病理)

日本病理学会理事に立候補するにあたり所信を表明いたします。病理学会は言うまでもなく、ヒトの病気の病態解明の研究と診断病理が両輪としてバランスよく発展し、多様な人材育成が行われることが重要です。基礎医学の分野で医学部出身の研究者の減少が危惧されている状況において、病理学教室の果たす役割は極めて重要であると考えています。病理学会が発展するためには、若い人たちに魅力のある多面的な活動を展開することが重要であり、そのために尽力したいと考えています。私は2006年4月よりPathology Internationalの編集長に就任し、その発展にも尽力をつくしてきました。投稿数も国内外から毎年300編を超えるようになり、他分野にわたる優れた論文を数多く掲載でき、インパクトファクターも目標であった1.5(2009年度、1.521)に達しました。引き続き、本誌の発展のために頑張っていく所存です。

### 上田真喜子

(大阪市立大学医学部病理病態学)

私は、平成20・21年度は日本病理学会の理事および人材育成委員長として、平成22・23年度は常任理事、および財務委員長として活動させていただきました。日本病理学会のさらなる発展のためには、若手病理医・病理研究者の育成がなによりも重要です。私が委員長として平成21年にまとめた「人材育成委員会からの提言」に基づいて、日本病理学会では男女共同参画委員会が設立され、現在の種々の取り組みが進行中です。今後は、女性病理医・研究者が男性病理医・研究者と対等のキャリアアップができるように、「Gender Equality」の理念に基づいた育成システムの確立・充実が重要課題です。また、日本病理学会の財務については改善すべき諸点があり、会費の値下げをはじめ、会員の御意見や御要望が反映されるような透明性のある財務システムに改善するべく、全力で取り組みたいと考えております。皆様の御支援を賜われればありがたく、よろしくごお願い申し上げます。

### 安井 弥

(広島大学大学院分子病理学)

病理学は病因・病態を究める統合の医科学であり、診断病理と実験病理は「病理学」の両輪、協働することにより大きな推進力を発揮することができます。これまでの努力によって心強いことに病理に興味を抱く者は増えてきています。この若い力を仲間とし、次代を担う病理医・病理研究者に育て上げることが学会の大きな使命です。そのためには、病理学を取り巻く環境をより充実させ、一層魅力的なものにしていく必要があります。研究推進委員長として

病理学会カンファレンス等の活性化に取り組んでいます。病理学会学術集会の充実・発展・活性化も極めて重要な課題です。私たちが特性として持つ医療・社会のニーズへの対応力と医科学における鳥瞰的視野を自信として、重きを診断に置く者も実験に置く者も、それぞれの使命と立ち位置を認識し、叡智を結集して「病理学」を盛り上げる、病理学会がその場となるように尽力する所存です。ご支援をお願い申し上げます。

#### 監事（選出区分4）

氏名	所属
井藤 久雄	鳥取大学医学部器官病理
金井 弥栄	国立がん研究セ・研・分子病理
中沼 安二	金沢大学医学系研究科病理学
八尾 隆史	順天堂大学医学部人体病理病態学

以上 4名（記載はABC順、所属は15字以内・本人申請）

#### 所信表明一覧（II）

監事候補者：4名；掲載はABC順

井藤 久雄

（鳥取大学医学部器官病理）

病理学は医学教育、卒後教育と後継者養成、医療現場、医学研究において、その重要性を今、益々高めています。従って、100周年を越えた日本病理学会の役割と任務はより拡大・多様化しています。世代交代は世の常であり、組織活性化の有効な手段ではありますが、現在の日本病理学会ではそのうねりが大きく、潮流はより速くなっているように思われます。私はこの10年間、日本病理学会倫理委員会委員長として取り組んでまいりました。医療倫理における病理学の任務は、十分とは言えないまでもより明確になった、と思慮しています。今回、監事に就任させて頂きましたら、これまでの経験を活かし、第三者的立場から日本病理学会の財務状況を監査して財務基盤強化に努めます。加えて、業務執行状況を常に俯瞰して会長や理事を補佐し、本会の多種多様な事業・業務の活性化に貢献する所存です。

金井 弥栄

（国立がん研究セ・研・分子病理）

希望なし

中沼 安二

（金沢大学医学系研究科病理学）

金沢大学医学系研究科形態機能病理学の中沼安二です。私は、昭和49年に金沢医学部を卒業し、本学会に入会し、以後、本学会を中心に、主に肝臓、胆道の病理学的研究を行い、研究成果を発表して参りました。また、関連するいくつかの学会（肝臓学会、胆道学会、肝癌研究会など）におきましても、それぞれの学会の病理領域での発展や運営に努力して参りました。平成16年～20年の4年間、日本病理学会中部支部長を務めさせて頂き、東海、北陸を中心とする中部支部の発展と病理医の交流に努力しました。平

成20年には第97回日本病理学会総会を金沢市で開催させて頂き、多くの会員に参加して頂きました。このような日本病理学会や関連学会での経験を生かし、本学会に貢献したく、監事に立候補させて頂く事になりました。当選させて頂きましたら、監事として、微力ながら本学会の発展に努力したく思っております。宜しく願い申し上げます。

八尾 隆史

（順天堂大学医学部人体病理病態学）

希望なし

#### 新役員当選者名簿

(1) 選出区分1 地方区選出理事：7名

1-1 北海道地区 笠原 正典（北海道大学）

1-2 東北地区 八木橋 操六（弘前大学）

1-3 関東地区 加藤 良平（山梨大学）

1-4 中部地区 野島 孝之（金沢医科大学）

1-5 近畿地区 伏木 信次（京都府立医科大学）

1-6 中国四国地区 吉野 正（岡山大学）

1-7 九州沖縄地区 横山 繁生（大分大学）

(2) 選出区分3

口腔病理部会長兼全国区選出理事：1名

山口 朗（東京医科歯科大学）

#### 所信表明一覧（III）

(1) 地方区選出理事：6名

北海道地区

笠原 正典

（北海道大学医学研究科分子病理学）

病理学の健全な発展のためには、疾患の理を追求する基礎研究、病理診断の現場に根差した人体病理学研究、基礎と臨床をつなぐ橋渡し研究、高い診断能力をもった病理医の育成、病理医の生涯教育がバランスよく有機的に行われることが不可欠であると考えます。また、医学生、研修医に病理学の魅力を知ってもらう努力をさらに強化し、病理学の未来を担う若者をリクルートする必要があります。微力ではありますが、日本病理学会ならびに同北海道支部の発展に尽くしたいと思っております。

東北地区

八木橋操六

（弘前大学大学院病態病理学講座）

東北地方では大震災からの復興に向けてなお多くの努力が必要とされています。病理部門もその中で重要な役割を担っております。東北支部での病理診療、研究の充実、学会の発展に向けて微力ながら貢献できればと考えています。

## 関東地区

加藤 良平

(山梨大学医学部人体病理学講座)

日本病理学会は100周年が過ぎ、次の世代に続く学会像を模索していかなければなりません。病理学という学域は大変懐が深く、基礎の生物学から臨床医学までを含んでいます。そのような学際的立場を踏まえた病理学会の役割は、優秀な病理診断医とともにリサーチマインドを持った病理医の育成にあると考えています。夢のある研究ライフと医師として社会貢献が両立できるのは、病理医の特権でもあると信じています。

日本病理学会の関東支部は、実に病理学会員の約4割弱が所属する最も大きな支部です。これまでの2年間、支部長として関東支部の運営、企画に携わってまいりましたが、幸いにして、多くの方々のご助力とご支援のお陰で、関東支部の伝統を踏まえながら、活発で円滑な運営が出来たものと自負しています。

関東支部のさらなる発展と魅力ある病理学会の構築のために、少しでもお役に立てれば幸いです。

## 中部地区

野島 孝之

(金沢医科大学臨床病理学)

この度、日本病理学会中部地区選出理事、支部長選挙の立候補にあたり抱負を述べさせていただきます。日本病理医協会を経て、中部支部は歴代支部長のもと、交見会と診断病理セミナーの開催、質の高いコンサルテーションシステムの構築、将来の病理学を担う若い人材の獲得と育成が図られてきました。私は伝統ある中部支部のこの路線を継承し、中部支部および日本病理学会の発展に寄与、貢献したいと思っています。具体的には、学術集会や教育関連企画の更なる充実、医・歯学生、検査技師、医療関係者と連携を計り、病理全体の裾野を広げる取り組みと交流、若い世代に病理学の魅力のアピール、支部会員の皆様の意見・要望の日本病理学会の運営への反映を目指します。会員の皆様といっしょに努力していく所存でございますのでなにとぞ宜しくお願い申し上げます。

## 近畿地区

伏木 信次

(京都府立医科大学分子病態病理学)

私は、臨床医学の基盤を構成する病理学がさらに大きく発展することを願っています。そのためには、人体病理学、実験病理学という垣根を越えた学問的交流、人的交流が不可欠であると考えます。そのような活動によってこそ病理学を志す若人を増加させることができ、多様な才能に恵まれた次代の人材を育成する道が拓かれると信じております。私は病理学の更なる発展と病理学に携わっている方々の地位向上のために微力を尽くす所存です。今回私は、近畿支部選出の理事に立候補いたしました。支部の運営に関しては、学術集会、各種講習会等の学術活動を活発に展

開することによって、会員に病理診断能力を高める機会を提供するとともに、広報活動の推進によって、病理医が医療の中で果たしている役割に関する社会の理解・認知度の向上を図りたいと考えます。さらに、支部会員のご意見やご要望が日本病理学会の運営に反映されるよう努力いたします。

## 中国四国地区

吉野 正

(岡山大学大学院病理学)

この二年間、日本病理学会中国四国支部長を務めてまいりました。この間、支部の学術委員会、業務委員会、広報委員会、庶務委員会の役割をより明確にし、それぞれが適切に活動され、支部は順調に運営されてきたと評価するところです。学会では、市民公開講座委員長として、恒例化しつつある公開講座でのアンケートを実施し、委員の方々と種々討議するとともに今後の開催の参考にしていただくようにしております。支部委員、診断講習会委員、教育委員では、それぞれ、現状についての意見交換、公平で実りある講習会の実施、病理コア画像の取り扱いや夏の学校についてのワークショップ実施ということに参画いたしました。支部長としては円滑な運営継続が最も重要な仕事ですが、学会での活動は緒に就いたばかりのところもあり、再度立候補するものです。ご支援のほどよろしく願いいたします。

## (2) 口腔病理部会長研全国区選出理事

山口 朗

(東京医科歯科大学口腔病理学分野)

私は、病理学を基盤として「口腔から全身を視る」「全身から口腔を視る」ことができる口腔病理医の育成を目指して口腔病理部会担当理事として活動してきました。この間に、口腔病理専門医制度運営委員会の委員長として同制度の改善に取組み、病理解剖を含む全身の診断病理の基礎を保持し、口腔領域疾患の病理診断に携わる優れた口腔病理医を育成するための環境整備を行ってきました。また、口腔領域疾患の基礎研究を推進し、口腔疾患の新たな疾患概念を創成することができる口腔病理医を育成する基盤環境を構築してきました。今後、日本病理学会を通して口腔病理医による診断業務の質の向上と社会的認知を高めるとともに基礎と臨床の架け橋となる次世代の口腔病理医の育成に努力する所存です。さらに、病理医の方にも「全身から口腔を視る」ことの重要性をさらに深く理解していただくことにより、日本病理学会の発展に寄与したいと考えております。

## 2. 病理専門医資格の更新について

日本病理学会病理専門医資格更新の本年度該当者には、学会事務局より必要書類が送付されます。本年度該当者は、第4回(1982年)認定登録者ならびに第4回(1986年)、第9回(1991年)、第14回(1996年)、第19回(2001年)、

第24回(2006年)試験合格者になります。該当であるにもかかわらず、10月初旬まで必要書類が送付されない場合は、事務局までご連絡ください。

また、上記以外で更新の手続きが遅れていた方で、本年度に更新申請を希望される方は、事務局までご連絡下さい。必要書類を送付いたします。

資格更新希望者は、平成23年10月31日までに所定の手続きをおとりください。

### 3. 口腔病理専門医資格の更新について

日本病理学会口腔病理専門医資格更新の本年度該当者には、学会事務局より必要書類が送付されます。本年度該当者は、第4回(1992年)認定登録者ならびに第4回(1996年)、第9回(2001年)、第14回(2006年)試験合格者になります。該当であるにもかかわらず、10月初旬まで必要書類が送付されない場合は、事務局までご連絡ください。

また、上記以外で更新の手続きが遅れていた方で、本年度に更新申請を希望される方は、事務局までご連絡下さい。必要書類を送付いたします。

資格更新希望者は、平成23年10月31日までに所定の手続きをおとりください。

### 4. Pathology International 編集長 (editor) の募集について

平成23年8月  
社団法人 日本病理学会  
理事長 青笹 克之

Pathology International 現編集長の任期満了にともない、平成24年以降の編集長を下記の要領により募集いたします。応募、または推薦の書面を病理学会事務局までお送り下さい。

#### 応募要領

1. 応募は自薦、他薦を問わないこと。
2. 応募者は、学術評議員である日本病理学会会員であること。
3. 応募者が自薦の場合は、氏名、所属機関、応募の要旨を、また他薦の場合は、推薦する候補者名を記載した書面(書式は自由)を提出すること。
4. 任期は、平成24年4月1日より4年とすること。再任可であるが2期目以降は任期2年とすること。
5. 締め切りは、平成23年9月30日(消印有効)とすること。

### 5. 第29回病理専門医試験について

本年度の病理専門医試験は、7月30日(土)、7月31日(日)に名古屋大会場にて実施されました。

83名が受験して、73名が合格しました(合格率87.95%)。

合格者氏名ならびに病理専門医登録番号は、次のとおりです(登録年月日:平成23年8月3日)。

#### 平成23年度病理専門医合格者氏名

認定番号	姓 名	認定番号	姓 名
2870	田島 将吾	2907	鳥津 宏樹
2871	宮田 友子	2908	青木 良祐
2872	大友 梨恵	2909	成毛 有紀
2873	香月奈穂美	2910	中野 夏子
2874	伊丹 弘恵	2911	帖地 康世
2875	波多野裕一郎	2912	大石 琢磨
2876	高橋 礼典	2913	本間まゆみ
2877	平 麻美	2914	大橋 隆治
2878	林 昭伸	2915	桐山 諭和
2879	青柳 大樹	2916	前田 大地
2880	内田 士朗	2917	桂田 由佳
2881	加藤 生真	2918	稲井 邦博
2882	伊東 良太	2919	吉岡 年明
2883	日野 るみ	2920	山田 健二
2884	千原 剛	2921	榎木 英介
2885	鈴木 司	2922	鬼頭 勇輔
2886	木下 真奈	2923	小笠原一誠
2887	前川 和也	2924	青木光希子
2888	関 敦子	2925	山本 洋平
2889	高瀬ゆかり	2926	向 宗徳
2890	古本あゆみ	2927	三井 伸二
2891	田中 慎介	2928	安田 和世
2892	笠島 敦子	2929	山田 哲夫
2893	坂田 征士	2930	山本 智彦
2894	田中さやか	2931	松坂 恵介
2895	杉口 俊	2932	米盛 葉子
2896	大久保陽一郎	2933	村田 雅樹
2897	高田 尚良	2934	松原亜季子
2898	川上 史	2935	坂下 信悟
2899	吉田 朗彦	2936	濱島 丈
2900	石神 浩平	2937	尾山 武
2901	加藤 省一	2938	刑部 光正
2902	吉田 誠	2939	及川 賢輔
2903	高橋美紀子	2940	岩谷 舞
2904	石垣 宏仁	2941	山田 洋介
2905	城光寺 龍	2942	長谷川正規
2906	喜古雄一郎		

また、病理専門医試験実施委員会の委員構成は以下のとおりです。

#### 第29回(平成23年度)(11名)

北川昌伸(委員長)、比島恒和、村田晋一、長尾俊孝、内藤善哉、中村暢樹、根本哲生、大橋健一、笹島ゆう子、鷹橋浩幸、谷澤 徹

### 6. 第19回口腔病理専門医試験について

本年度の口腔病理専門医試験は、第29回病理専門医試験と同日、同会場で行われました。

10名が受験して、7名が合格しました（合格率70%）。  
合格者氏名ならびに口腔病理専門医登録番号は、次のとおりです（登録年月日：平成23年8月3日）。

平成23年度口腔病理専門医合格者氏名

口腔認定番号	姓	名			
150	宮部	悟	154	大山	秀樹
151	結城	美智子	155	石毛	俊幸
152	栢森	高	156	柳生	貴裕
153	丸山	智			

また、口腔病理専門医試験実施委員会の委員構成は以下のとおりです。

第19回（平成23年度）（3名）

原田博史（委員長）、久山佳代、槻木恵一

## お知らせ

### 1. 日本テレパソロジー・バーチャルマイクロコピー研究会設立10周年記念総会のお知らせ

会期：平成23年9月9日（金）、10日（土）

場所：京都リサーチパーク

〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町13

TEL：075-322-7800

会長・世話人：（財）ルイ・パストゥール医学研究センター  
土橋康成

主催：日本テレパソロジー・バーチャルマイクロコピー研究会（TP・VM研）

テーマ：「日本再生，デジタルパソロジーの次なる10年を展望する」

参加費：会員5,000円，非会員7,000円

懇親会費8,000円

研究会入会および総会問い合わせ先：

日本テレパソロジー・バーチャルマイクロコピー研究会事務局

（財）ルイ・パストゥール医学研究センター

〒606-8225 京都市左京区田中門前町103-5

担当：津久井淑子

TEL：075-322-7888 FAX：075-314-2968

E-mail：jrstpi@louis-pasteur.or.jp

ポータルサイト <http://telepathology.iwate-med.jp/>

## 日本病理学会認定施設の認定申請（新規）について

第34回（平成23年）の認定審査のための申請を下記の通り受け付けますので、ご通知申し上げます（剖検例が剖検輯報に掲載されていることが必須です）。

1. 申請受付期間 平成23年10月1日～平成23年10月31日
2. 申請に必要な書類
  - 1) 日本病理学会認定施設認定申請書 1通
  - 2) 認定施設認定申請書資料 1通
3. 申請に必要な書類の請求・送付先  
〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-9 ニュー赤門ビル4F  
社団法人日本病理学会事務局  
TEL：03-5684-6886 FAX：03-5684-6936  
E-mail：jsp-admin@umin.ac.jp

---

## 日本病理学会登録施設確認申請（新規）について

第34回（平成23年）の登録施設確認を行なうにあたり、下記により確認申請を受け付けますのでご通知申し上げます（剖検例が剖検輯報に掲載されていることが必須です）。

1. 申請受付期間 平成23年10月1日～平成23年10月31日
2. 申請に必要な書類
  - 1) 日本病理学会登録施設確認申請書 1通
  - 2) 日本病理学会登録施設被登録承諾書 1通
  - 3) 登録施設確認申請書資料 1通

注意 1) は既に研修施設として認定されている大学の病理学講座・病理部等より申請して下さい。

2) はこれから登録を受けようとする病院より提出して下さい。

3) はこれから登録を受けようとする病院の専任又は非専任の病理医が記入することが望まれます。
3. 申請に必要な書類の請求・送付先  
〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-9 ニュー赤門ビル4F  
社団法人日本病理学会事務局  
TEL：03-5684-6886 FAX：03-5684-6936  
E-mail：jsp-admin@umin.ac.jp